板橋 地区

❶子易神社
板橋2-19

旧金井窪村の鎮守。富士浅間神社の分霊を勧請したとされ、また安産・子育ての神様としても知られている。**子易神社子安観音坐像**は、明和2年（1765）の作で、元々は明治期に廃寺となった別当寺、福正寺に祀られていた。毎年10月16日にのみ公開。**子易神社文書**は、江戸から大正期にかけてのもので、当地で行われていた祭礼やその費用などを記録した貴重な史料である。

①東上鉄道記念碑
板橋2-4

大正8年（1919）の建立で、同3年に池袋～田面沢（現：川越市内）間で開業した東上鉄道（現：東武鉄道東上線）建設の経緯が記され、創立に尽力した蓮根の内田三左衛門の功績を顕彰したもの。当初は上板橋駅南口にあったが、移転を重ねて現在地へと移されている。

②東光寺
板橋4-13

室町期の創建とされる浄土宗寺院。境内にある青面金剛像を彫った**東光寺寛文二年庚申塔（1662）**と、平尾一里塚にあったという**東光寺石造地蔵菩薩坐像**の台座には、それぞれを奉納した宿場の人びとや加賀藩下屋敷に詰めた足軽などの名が刻まれる。また、**宇喜多秀家供養塔**は、慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いに敗れ、八丈島へと流された宇喜多秀家の子孫が、明治2年（1869）になって罪を許され、翌年、縁故にあった加賀前田家の江戸下屋敷跡に移住した際に建立したもの。

③観明寺
板橋3-25

室町期の創建とされる真言宗寺院。入口にある**観明寺寛文元年庚申塔（1661）**は、青面金剛像が刻まれた区内最古のもの。本尊の**観明寺聖観音立像**は、12世紀頃の作とされ、区内最古の仏像のうちの一つ。延宝2年（1674）の作である**観明寺不動三尊像**、幕末に描かれた《仏涅槃図》と《釈迦十六善神図》からなる**観明寺豊田家奉納仏画**も伝わる。明治6年（1873）に成田山の不動尊を勧請してから、縁日が開かれるようになり、出世不動として信仰を集めた。

④加賀前田家下屋敷跡
加賀1-8　区立加賀公園

延宝7年（1679）、加賀藩四代藩主前田綱紀が幕府より屋敷地を拝領したのがその始まりで、最終的には約21万8千坪の広大な下屋敷となった。平尾邸とも呼ばれ、石神井川を利用した池泉回遊式庭園が広がり、藩主と家族の「別荘」として利用された。明治期には屋敷地の一部が陸軍板橋火薬製造所（後の東京第二陸軍造兵廠板橋製造所）となった。下屋敷の範囲は加賀1・2丁目、板橋1・3・4丁目などに及ぶが、史跡としての登録範囲は下屋敷にあった築山が残る区立加賀公園となっている。

⑤陸軍板橋火薬製造所跡 ☆
加賀1-7・8

加賀一丁目に位置する**陸軍板橋火薬製造所跡**は、平成29年度に国の史跡に指定された。加賀地域一帯は、江戸時代、約21万8千坪の敷地をもつ加賀前田家下屋敷が所在していたが、明治初年、下屋敷の跡地の一部に官営の火薬製造所が設置され、終戦時まで稼働していた。現在は、火薬の試験を行った発射場などの実験施設、燃焼実験室や物理試験室などの研究施設、常温貯蔵室などの火薬の貯蔵施設、爆薬製造実験室の製造施設など、火薬製造の一連の工程を理解できる遺構が残っている。今後、板橋区は史跡全体を史跡公園として整備する予定である。現在は史跡の一部(区立加賀公園部分)のみ見学可。

⑥板谷公園 付銘板
板橋4-55

前田家下屋敷の一部は明治期に民間に払い下げられ、そのうちの板橋3・4丁目は昭和10年（1935）に板谷造船株式会社が住宅地として分譲を行った。当公園は大規模宅地造成にともなう公園地の確保が目的で設けられ、板谷造船株式会社より敷地が無償提供され、東京市が施工して同12年に東京市板谷公園として誕生した。現存する区内最古の公園であり、当時の銘板が残る。

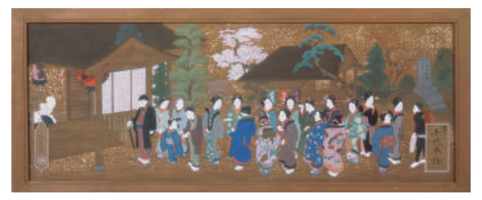
⑦圧磨機圧輪記念碑
加賀1-10　区立加賀西公園

板橋火薬製造所の創設に関わった澤太郎左衛門の功績を称え、大正11年（1922）に建てられた。黒色火薬の製造に使用されたベルギー製の圧磨機が利用され記念碑となっている。日本の近代工業発展の礎となった産業遺産の一つ。

⑫招魂之碑(明治35年陸軍板橋火薬製造所爆発事故)
加賀1-10　区立加賀西公園

明治35年（1902）、板橋火薬製造所で発生した爆発事故で亡くなった技手や職工を慰霊するために、製造所有志によって建立された石碑。爆発の原因となった無煙火薬は、国内で初めて板橋で生産された当時最新の火薬だったが、安定性に問題があり、たびたび爆発事故が発生していた。

④遍照寺
仲宿40



江戸期には天台宗であったが、現在は真言宗寺院。**遍照寺「遍照寺参詣図」絵馬**は、明治期に千代本楼が奉納した絵馬で、当地の絵馬師柴左一の作。太夫行列が描かれるなど宿場の風俗がうかがわれる。**遍照寺所蔵絵馬**は、当寺の境内に馬つなぎ場があったことから馬を描いたものが多い。

⑤文殊院
仲宿28

江戸初期の創建とされる真言宗寺院。本尊の**文殊院文殊菩薩坐像**（見学不可）は、寛文年間（17世紀後半）の作とされる。また、板橋宿本陣飯田家の菩提寺でもあることから、墓地には飯田家の出身で加賀藩前田家の祐仙院に仕え、寛政9年（1797）に25歳で亡くなった、飯田静の業績を記す**飯田静の碑**がある。

⑧旧板橋町役場跡地
仲宿44　区立仲宿ふれあい広場

明治22年（1889）の町村制施行により板橋町が成立。町役場は当初旧戸長役場に置かれたが、同30年に当地に移転。昭和7年（1932）10月の板橋区の成立まで板橋町の行政を担った。

⑥①東京家政大学 ☆
加賀1-18

当校の前身は明治14年（1881）に渡辺辰五郎が本郷で設立した和洋裁縫伝習所。その後身である東京裁縫女学校と東京女子専門学校の教育課程において作製された、衣服や生活道具類の三分の一の雛型である**渡辺学園裁縫雛形コレクション**は、国重要有形民俗文化財に指定（大学博物館所蔵、見学可）。構内に残る**旧東京第二陸軍造兵廠建物群**は、昭和21年（1946）に渡辺学園が板橋に移転してきた当時より、授業などで使われてきた造兵廠時代の貴重なレンガ造りの建物である。

⑨板橋
本町28

石神井川に架かる橋で、一説には板橋の地名の起こりとされる。江戸期には橋を境として、北側が上宿、南側が中宿となっていた。中宿には本陣・貫目改所などが置かれ、宿場の機能が集中していた。当時の橋は、長さが9間（約16m）、幅3間（約5.5m）。昭和47年（1972）に現在の橋となった。

⑩氷川町氷川神社
氷川町21

旧下板橋宿の鎮守で、中世の豊島左衛門尉経泰が大宮氷川神社の分霊を勧請。**氷川町氷川神社富士塚**は、富士講中により富士山を模して造られたミニチュア富士山で、麓から山頂にかけて登山道を模した道や石碑を建てた礼拝所が配されている。

⑦②日曜寺
大和町42

享保年間（18世紀前半）に、徳川八代将軍吉宗の次男である田安宗武が帰依した真言宗寺院。**日曜寺田安家奉納仏画**は、宗武とその親類縁者が奉納したと伝わる仏画を一括したもの。愛染曼荼羅、両界曼荼羅、弘法大師影像がある。本尊の愛染明王は藍染に通じることから、江戸・東京や周辺の染色業者による信仰を集めた。山門に掛けられた**日曜寺扁額**は、宗武の子松平定信が自筆揮毫したもので、文化12年（1815）に奉納された。境内には江戸幕府連歌宗匠であった**阪昌周歯髪埋納の碑**や天保10年（1839）作製の手水鉢をはじめとする**日曜寺愛染講奉納石造物・奉納額**がある。

⑧③⑪智清寺
大和町37

室町期に創建された浄土宗寺院。江戸期には将軍家から5石の寺領が与えられた。**智清寺文書**は江戸期以降の寺院経営や明治期の朱印地払下げに関する史料群。境内に残る**中用水遺構石橋**は、正徳4年（1714）に造られ、山門前を流れていた石神井川を分水した中用水に架けられていた。**木下出世稲荷**は、神像が豊臣秀吉ゆかりの稲荷と伝わる。小祠には2躯のダキニ天が祀られ、板橋宿の名所として庶民の信仰を集めた。

⑨旧養育院長渋沢栄一銅像
栄町35

当像は、日本の福祉・医療の原点であり、当分野をリードしてきた「養育院」と、運営の中心的役割を果たした院長渋沢栄一による社会福祉事業への関与を明らかとする歴史資料で、大正13年（1924）に建てられた。

⑫縁切榎
本町18

江戸期に旗本近藤登之助の抱屋敷にあった榎が、後に「縁切り」に結びつき、幅広い信仰を集めたもので、男女の悪縁を切ることや断酒などが祈願された。中山道を経由し、朝廷から幕府へ降嫁した和宮などの姫君たちは、縁切榎を迂回して、愛染通りから宿場へと入った。近代になると、悪縁を断つが、良縁を結ぶものに転じ信仰が広まった。絵馬師柴左一の作、**縁切榎茶屋風景図絵馬**（郷土資料館寄贈）がある。

⑬稲荷台遺跡
稲荷台23

昭和14年（1939）に白崎高保・江坂輝彌氏らにより発掘調査が実施され、縄文時代早期撚糸文系土器が出土し、この資料が「稲荷台式」の標式資料となる。平成19年（2007）に区に遺物が寄贈され、**稲荷台遺跡出土（江坂輝彌氏旧蔵）遺物**として区登録有形文化財となる（郷土資料館寄贈）。加賀小学校の校門脇に石碑が建つ。

②西光院
南町31

江戸初期の創建とされる真言宗寺院。参道にある**西光院のスダジイ**は樹齢400年ともいわれる古木で、周辺のランドマークとなっている。

③空襲犠牲者供養の地蔵
大山金井町16

昭和20年（1945）4月13日の空襲によって、区内の板橋から志村にかけての地域では、死者232名、負傷者177名、約45,000名もの罹災者が出ている。当地蔵は当地にあった防空壕で亡くなった、子どもを含む9名の供養と恒久平和を願って、同25年に建てられた。

⑩熊野町熊野神社
熊野町11

応永年間（1394-1428）に庭田主水正氏兼が熊野権現を勧請したのに始まると伝える旧中丸村の鎮守。**熊野町熊野神社文書**は、神職として昭和7年（1932）から当社に奉職した中島清治郎が勤務していた内務省の国家神道関連のものや、昭和7年以降の当社関連のものからなり、明治時代の国家神道や戦中・戦後の地域の歴史を明らかにするうえで貴重である。

⑪板五米店
仲宿40

大正3年（1914）に建てられ、近世町家に洋風の意匠が加わった建造物。かつては米穀小売業を営んでいた。中山道の街道に面して建つ町家の系譜をひく土蔵造町家。店舗と住居から成り、1階の店舗部分は寄棟造桟瓦葺の屋根、黒漆喰塗り土蔵造り。正面2階の軒は「せがい造」。煉瓦の妻壁を2階軒高まで建ちあげている点が特徴。

上板橋 地区

⑬上板橋小学校
（見学不可）
東山町47

明治9年（1876）に区内で三番目に創立した上板橋学校を遡源とし、同13年に現在地へと移転した。**上板橋小学校校史資料**は、同9年の「学校設立願書」をはじめとして、主に明治期から昭和戦中期にかけての書類・日誌や寄贈資料などからなる。教育史や地域史を研究するうえで貴重な資料となっている。

⑭⑱安養院
東新町2-30

鎌倉時代の執権北条時頼によって創建されたという真言宗寺院。鐘撞堂にある**安養院銅鐘**は、元禄2年（1689）に鋳造され、享和2年（1802）に再鋳されたもので、国の重要美術品。江戸初期の作とされる**安養院紅頗梨色阿彌陀如来坐像**は、孔雀座に坐る宝冠阿彌陀像で前立ち本尊として安置される。**安養院釈迦四面像**は、武田信玄の守本尊とされ、紀州徳川家から当院へと寄進された。厨子の中には巌山が作られ、四面の扉や天井部には狩野派による作画が見られる。**安養院文書**は、江戸期から昭和期にかけての寺院経営や周辺の真言宗寺院の動向を伝える文書群。**安養院庫裡**は、明治34年（1901）に東京市麹町区に建てられた旧前橋藩松平家、伯爵松平基則の本邸を、昭和4年（1929）に当院が買取り移築したもので、近代和風建築の指標となりうる建築物。境内には区内最大の**安養院のカヤ**がある。

⑮①②南常盤台天祖神社
南常盤台2-4

川越往還の上板橋宿鎮守で、明治5年（1872）以前は神明宮と称していた。**南常盤台・天祖神社所蔵資料**は、明治後期から昭和期にかけての神社の動向や、神社と地域との関係などを示した文書群と、幕末期から明治期にかけての神話などを題材とした絵馬からなり、地域の歴史や風俗を知ることができる貴重な資料。**祭り囃子（神田囃子）**が、正月や例祭に奉納される。

⑯常盤台・斯波家住宅
（内部見学不可）
常盤台2-13

常盤台住宅は、昭和11年（1936）から同14年にかけて、東武鉄道が分譲した戦前最後の「田園都市」である。斯波家住宅は、同13年に建築された近代和風建築で、当住宅地の歴史を語るうえでの好資料。

⑰帝都幼稚園 付門柱
（内部見学不可）
常盤台1-6

帝都幼稚園は、昭和11年（1936）に東京府豊島師範学校教諭で音楽家の山本正夫が設立した帝都学園女学校が母体。同21年に校舎の約2/3を焼失したが、それを免れた設立当初の建物を現在地に移築し、帝都幼稚園として再出発。園舎は常盤台住宅地の歴史を語るうえでの好資料。正面にある同32年卒園生が寄贈した門柱は、当時南常盤台に居住していた童画家武井武雄の設計。

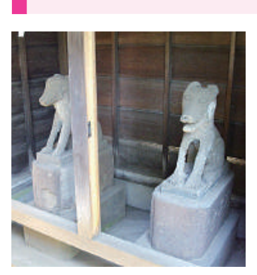
⑱上板橋宿副戸長碑
弥生町17

明治6年（1873）に東京府は、明治政府が全国を大区小区に編成したのを承けて、小区に戸長を一人、小区を構成する各町村に副戸長を一人ずつ置いて行政実務にあたらせた。この時、上板橋宿（村）の副戸長に任命されたのが榎本利八で、当碑は大正14年（1925）10月に孫の弥右衛門によって祖父利八を顕彰するために建てられた。近代的行政制度の黎明期の様子を伝える資料。

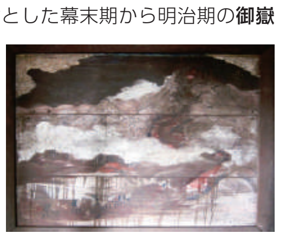
⑥東新町氷川神社
東新町2-16

上板橋村の鎮守で、字上ノ根に鎮座。境内にある郷土資料館に収蔵・展示された**東新町氷川神社郷土資料館所蔵品一括**は、江戸期から昭和期にかけて村内で使われていた農具・生活用具など1,000点余からなる資料群。これは地元の有志により収集されたもので、都市化される前の、地域の生活を知ることができる貴重な文化財（見学は要事前連絡）。

⑦御嶽神社
桜川1-4



武州（一説では甲州）御嶽山の分霊を勧請したとされる。**御嶽神社の狛犬**は、嘉永7年（1854）に下新倉の石工石田栄蔵により造られた。山の神の眷属である狼（山犬）型で、区内では当社のみに確認される。神楽殿には神話などを題材とした幕末期から明治期の**御嶽神社所蔵絵馬・扁額**がある。



⑭根ノ上遺跡
小茂根1-5・6　区立根ノ上遺跡緑地

都営住宅の建て替えにともない、昭和59年（1984）から同63年にかけて発掘調査が行われ、旧石器時代から古代までの遺構や遺物が多数発見された。なかでも弥生時代では、ムラの周囲に濠を巡らした環濠集落が確認されている。その後建築整備された図書館と公園には、様々な展示等がなされている。

⑮下頭橋と六蔵祠
弥生町52

江戸期の川越往還が石神井川を渡る地点に架けられた橋。往還を利用する近隣の村々の他力（助力）を得て石橋が架けられた際に建立された「他力善根供養塔」がある。橋のたもとに住み着いた六蔵という人物の浄財により、石橋が架け替えられたとする六蔵伝説が伝わる。

⑯空襲犠牲者供養の地蔵（平安地蔵）
南常盤台2-11

昭和20年（1945）6月10日におきた南常盤台・東新町一帯への空襲では、死者270名以上、負傷者155名、2,467名の罹災者を出した。当地蔵は、亡くなった方の冥福と恒久平和を願い、同23年に地元の人々により建てられた。

⑰旧上板橋村役場跡地 付門柱
東新町2-36　区立桜川おとしより相談センター

明治22年（1889）の町村制施行により上板橋村が成立。村役場は当初安養院内に置かれたが、昭和2年（1927）に当地に役場を新築、移転した。同7年10月の板橋区の成立まで上板橋村の行政を担った。当時の門柱が現存する。

⑲茂呂遺跡 ●
小茂根5-17

昭和26年（1951）の発掘調査で、関東ローム層（赤土）の中から礫群や黒曜石製のナイフ形石器等が出土し、日本に縄文時代より古い文化（旧石器時代）が存在することを確認した2例目の発掘調査となり、また、その文化が広い地域に展開していることが明らかになった。同44年東京都指定史跡。平成11年に出土遺物の一部が東京都指定文化財となった。

④向原八雲神社
向原2-4

向原に鎮座し、江戸末期には創建されていたと推定される。**向原八雲神社信仰関係資料**は、富士山・大山への登拝講にかかわる石造物に加え、御三幅をはじめとする富士講関係資料、八雲神社での祭祀や諸山への登拝講に関する文書群からなる。特に相州大山への奉納物であり、当地から担いで参詣する木太刀と御神酒枠は、区内では当社でのみ確認することができる貴重な資料。

⑤西光寺
大谷口2-8

江戸初期に創建された観音堂を始まりとする真言宗寺院。境内に安置された**しろかき地蔵**は、室町期の作とされ、区内最古の石地蔵。地蔵が大谷口の農家のしろかきを手伝ったという昔話が伝わる。

志村 地区

中台延命寺の復興2　幕末の仏教信仰の広がり

中台延命寺所蔵大般若経　附 旧 経櫃・経箱
（区登録有形文化財・典籍）

中台延命寺所蔵
鉄眼版大般若経　第1巻

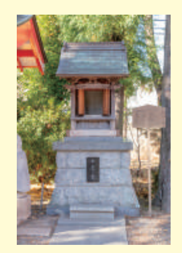
板橋区中台にある延命寺は約400年前にできた中台村の寺院です。火事に遭いましたが、中台村や周辺の人々によって復興されました。

中台延命寺所蔵大般若経　附 旧 経櫃・経箱は、「鉄眼版」という種類の大般若経600巻と入れ物のセットです。今から約170年前、周りの村の人々から寺院に贈られました。それがわかる理由は、各経典に「●●村　■■■（贈り主の名前）」と書かれているからです。中台村を中心に、現在の板橋・北・練馬区や埼玉県域の人々によるものでした。これが、この資料の最も大事な特徴です。

大般若経600巻や箱のセットは、高級な材料で、職人が一つずつ手作りするので高価なものでした。幕末に、仏教や延命寺を大切に思う人々が協力し、寺院の復興のために**大般若釈迦十六善神図・釈迦涅槃図**とともに贈ったことがわかる重要な文化財です。

荒川（旧入間川）の洪水の歴史を今に伝える

十度ノ宮（区登録有形文化財・歴史資料）



板橋区舟渡二丁目18番地にある舟渡氷川神社に「十度ノ宮」は祀られています。

このお宮は、今から200年以上前に書かれた『新編武蔵風土記』に、「この宮は、昔から蓮沼村の西南にあったが、何度も洪水で押流されて今の場所に十度も流れついたので、ここに塚を築き、榎を植えて神社とした。地域の人は今でも「十度ノ宮」と呼ぶ」とあり、当時から知られたお宮でした。

形は笠がついた石の祠で、正面に「奉修造立氷川大明神御宝前」、左面に「万治二己亥年六月十五日」、右面に「寛保三癸亥年十二月吉日　武州豊島郡蓮沼村　別当金剛院」の文字が刻まれています。このことから、少なくとも1659年（万治2年）には「十度ノ宮」がまつられていたことがわかります。

「十度ノ宮」は、洪水によって歴史資料がほとんどない舟渡地域に現存する貴重なものであり、自然災害との共生とその歴史を後世に伝える重要な文化財です。

⑧⑳宮本町稲荷神社
宮本町54

旧志村清水町の鎮守で、かつては泉町の出井の泉（出井の泉公園）のほとりにあったが、現在地へ遷ったという。境内にある資料館には、清水地域で使われていた農具や民具が保存・展示され、**清水資料館収蔵品一括**として文化財になっている。**稲荷神社のイチョウ**は、雨乞いの時の御神木。

⑨南蔵院
蓮沼町48

江戸初期には創建されていたと伝わる真言宗寺院。江戸期に坂下二丁目から現在地へと移転したとされる。境内にある**南蔵院の庚申地蔵**は、承応3年（1654）に蓮沼村の庚申待講中により造られた丸彫り地蔵。**南蔵院石造出羽三山供養塔**は、安永6年（1777）と文化元年（1804）造立の、計3基の供養塔からなり、台座に蓮沼村・前野村・小豆沢村の出羽三山講の講員70名の姓名と羽黒山から授与された房号が刻まれている。

⑲長徳寺
大原町40

鎌倉時代に中興したとされる真言宗寺院。かつての本尊であった大日如来像は、子育て・乳授けの仏として信仰を集めていたが、空襲により焼失。**長徳寺阿弥陀如来立像**は、平泉の中尊寺に安置されていたとされ、平安後期の作と考えられる。

⑳齋藤商店
（内部見学不可）
小豆沢2-16

齋藤商店は、原木商として明治22年（1889）に当地で創業。建物は、昭和8年の中山道（現国道17号線）拡張工事にともなって新築されたもの。建物自体は店舗と住居が一体となっている。当建造物は、郊外の独立住宅の趣を呈する近代和風建築で、近接する志村一里塚と一体化した町のランドマークとしても親しまれている。

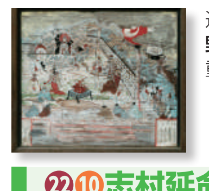
㉑志村一里塚 ☆
志村1-12・小豆沢2-16

中山道に設置された日本橋から数えて3里目（約12km）にある一里塚。明治期に多くの一里塚が廃毀される中で、**志村一里塚**は、23区内では日光御成道の西ケ原の一里塚（北区）とともに二基一対で現存し、大正11年（1922）に国の史跡に指定されている。昭和8年（1933）からの中山道拡幅工事に際しても位置を変えず、周囲に石積みを施し保全された。

㉑⑬常楽院 ●
前野町4-20

江戸初期には創建されていたという真言宗寺院。墓地には鎌倉時代の特徴を有する**常楽院年不詳阿彌陀三尊種子板碑**がある。戦前から戦後にかけての、前野町一帯の発掘調査によって発見された弥生時代後期の標式資料とされた前野町式土器などは、当時の守山聖眞住職によって収集されたもので、当寺は「土器寺」と呼ばれた。現在は、**常楽院土器収蔵庫収蔵品一括**として区有形文化財。またその一部は東京都有形文化財。江戸末期以降の**常楽院所蔵絵馬・扁額**には弘法大師伝説を描いたものなどがあり、当地の信仰を知るうえで貴重な資料。

⑫前野町五丁目熊野神社
前野町5-35



通称は西熊野神社。江戸末期以降の**前野町五丁目熊野神社所蔵絵馬・扁額**は当地の信仰を知るうえで貴重なもの。

㉒⑩志村延命寺
志村1-21

志村城をめぐる攻防戦で我が子を失った見次権兵衛が、世の無常を悟り、自分の屋敷地を寺院としたという伝承がある真言宗寺院。境内には区内最古の建長4年（1252）の板碑を含む**志村延命寺板碑群**と、正保4年（1647）に造られた**志村延命寺の庚申薬師**がある。薬師を刻み、舟型光背を持つ希少な庚申塔で、いぼとりの「蛸薬師」としても親しまれていた。

㉓志村坂上富士大山道道標・庚申塔
志村2-7

旧中山道から中台を経由して練馬道（富士街道）へとむかう道の分岐点に建つ。**道標**は寛政4年（1792）の建立。**庚申塔**は万延元年（1860）に建てられ、練馬・柳沢・府中への里数が刻まれている。富士・大山への参詣者が目印とした。

㉔大野幸雄家文書
（見学不可）
志村2

大野幸雄家は代々武兵衛を称し、志村（堀之内村）の名主や組頭、百姓代などの村役を務めた。**大野幸雄家文書**は、貞享2年（1685）の年貢割付状をはじめとして、明治期までの土地関係の文書が大半を占めている。また、改築を施してはいるが、敷地に長屋門が現存する。

㉕旧志村役場跡地
志村2-19　東京聴覚障害者支援センター

明治22年（1889）の町村制施行により志村が成立。村役場は当初延命寺内に置かれたが、同36年におきた役場の焼失にともない民家に移転。さらに、大正2年（1913）に当地へ移転した。昭和7年（1932）10月の板橋区の成立まで志村の行政を担った。

⑪㉖志村熊野神社
志村2-16

長久3年（1042）に志村将監が紀州熊野神社の分霊を勧請したと伝えられる。志村庄（旧志村）の総鎮守。また、神社を含めた一帯が志村城とされ、社殿の裏側には空堀が残る。境内の絵馬殿には**志村熊野神社所蔵絵馬・扁額 付寄進札**がある。これは江戸期から大正期にかけて作られたもので、とくに寛政7年（1795）の「伊勢太々神楽奉奏絵馬」はその時代性などから注目される。**熊野神社の樹林**は、武蔵野の面影を残す貴重な樹林である。

㉖大善寺址石坂供養塔
小豆沢3-7

総泉寺は、建仁元年（1201）の開創で、昭和3年（1928）に現在地に移転した曹洞宗寺院。移転時に当所にあった大善寺を併合。室町期から江戸初期の作とされる**総泉寺薬師三尊像**（㉕）は大善寺の本尊（見学不可）。門前にある寛保4年（1744）建立の**大善寺址石坂供養塔**は、清水薬師の効能と石坂の設置を記念したもの。

㉔薬師の泉跡
小豆沢3-7　区立薬師の泉庭園

昭和初期までは、当所に曹洞宗大善寺が建っていた。享保年間（18世紀前半）に八代将軍徳川吉宗が鷹狩をした際に当寺で休息し、境内から湧出する清水を賞して、本尊を「清水薬師」と命名したという。中山道の名所として旅人や文人が訪れた。現在は『江戸名所図会』の挿絵に基づき、史跡公園として整備されている。

㉗戸田橋親柱
小豆沢3-3　区立小豆沢公園

荒川の「中山道戸田の渡し」に昭和7年（1932）に架けられた三代目戸田橋の親柱。同53年に四代目の完成により三代目は解体されたが、その後同55年に、橋の両側の親柱を板橋区・戸田市がそれぞれ引取った。板橋区側の親柱は区立小豆沢公園へ移築、保存されている。

㉘龍福寺
小豆沢4-5・16

室町末期の創建と伝わる真言宗寺院。境内には台地の下に広がっていた七々子崎という入江から出現したという薬師如来を祀る。**龍福寺建長七年板碑（1255）**をはじめ、**龍福寺所蔵板碑群**があり、「板碑の寺」としても知られる。その墓地を中心に、縄文時代後期から晩期の貝塚である**小豆沢貝塚**（㉒）が広がる。そこから出土する魚や動物の骨など当時の生活の様子を窺い知ることができる。

㉓小豆沢神社
小豆沢4-16

康平年間（11世紀後半）に源義家が勧請したとされる小豆沢村の鎮守。江戸期には十二天社と呼ばれていたが、明治2年（1869）に社号を改めた。社殿は観音塚と称される古墳上に建てられているという。鳥居脇の**小豆沢神社のスダジイ**は、当社の御神木。

㉙㉗若木稲荷神社
若木1-13

「トウカ渡し」と呼ばれた当所に、稲荷大明神が降臨したと伝えられる。明治18年（1885）に氏子から奉納された**若木稲荷神社「四季農耕図」絵馬**は、一年間の農作業の様子が描かれており、当時の農民の暮らしを窺わせる資料。境内には「稲荷越の大木」と親しまれた**稲荷神社のムク**がある。

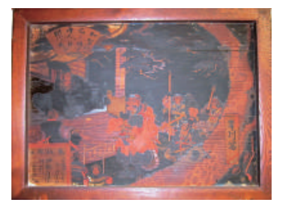
㉘中台馬場崎貝塚
若木3-4　区立若木三丁目貝塚公園

昭和42年（1967）の発掘調査にて縄文時代前期（約5,500年前）の貝塚が発見され、同55年の確認調査では縄文時代から平安時代までの遺構や遺物が発見された。現在は区立公園として、遺跡の保存と活用が図られている。

㉚㉙圓福寺
西台3-32

室町期に太田道灌によって川越で創建され、当地へ移転してきたという曹洞宗寺院。江戸期には将軍家から20石の寺領が与えられた。開基である太田道灌に所縁の**圓福寺明徳二年雲版（1391）**や、中世文書を含む**圓福寺文書**は、江戸期から知られていた寺宝。**圓福寺太田道灌像**も貴重なものである。なお、文明17年（1485）の**圓福寺月待画像板碑**は、当地が中世の宗教施設であったことを窺わせる資料。境内にある**圓福寺のコウヤマキ**は、高野山より移植したものという。

㉛⑭京徳観音堂
西台3-53



江戸期には真言宗教徳寺の持堂であったが、明治5年（1872）に廃寺となり、現在は圓福寺が管理。境内には、**京徳観音堂の延文六年宝篋印塔（1361）**と、江戸幕府の旗本**井上正昭・井上正員父子の墓**がある。江戸末期以降の**京徳観音堂所蔵絵馬・扁額**には、伊勢講に関するものなどがあり、当地の信仰を知るうえで貴重な資料。

⑮西台天祖神社
西台2-6

創建年代は不明であるが、江戸時代には神明社と称し、西台村の鎮守社であった。西台村周辺の人々から寄進された、**西台天祖神社所蔵絵馬・扁額**には、大山講・伊勢講に関するものなどがあり、当地域での信仰を知る貴重な資料。また、井戸掘りの様子を描いた絵馬は非常に珍しい図像。

㉜蓮華寺
蓮根1-10

創建当初は荒川（入間川）河畔にあったが、川の氾濫によって、蓮沼地域の村落移動とともに現在地へと移転したとされる真言宗寺院。当寺の**蓮華寺客殿・庫裡棟札**には、寺の再興にあたった多数の檀家の名前と、客殿と庫裡の普請にかかった費用が記録されている。区内において年紀が判明する最古の棟札である。

㉝中台延命寺
中台3-22

江戸時代の初めに始まったとされる真言宗寺院。総本山は長谷寺、中本山は練月山愛染院観音寺（練馬区）で、江戸時代から中台村の祈願寺として信仰を集めた。江戸時代に火災に遭い、幕末に復興が行われた。嘉永2年（1849）に描かれた**中台延命寺所蔵「大般若釈迦十六善神図」及び「釈迦涅槃図」**は幕末に活動した仏画僧の無言蔵憲海と大成憲里の作品。寺の復興のため、中台村の村人や愛染院から奉納された。

Ⓐ前野田向遺跡第2地点
前野町3-53

都営住宅の建て替えにともない、平成6年（1994）に発掘調査が実施された。縄文時代早期撚糸文系の土器は、時間的変遷や他地域との交流関係が窺える好資料である。

Ⓑ前野兎谷遺跡※
前野町5-29

共同住宅建設にともない平成8年（1996）から同9年にかけて発掘調査が実施され、縄文時代から近世までの遺構や遺物が発見された。なかでも古墳時代前期の資料が充実する。昭和15年（1940）に「前野町式土器」を設定した7地点の一つである。

Ⓒ中台畠中遺跡
中台2-43

社員寮建設にともない昭和63年（1988）から平成元年にかけて発掘調査が実施され、旧石器時代から平安時代までの遺構・遺物が多数発見された。なかでも平安時代の鉄製の馬具や鉄鏃などは、武士の発生を考えるうえで重要な遺物である。

Ⓓ西台遺跡
西台2-7　区立西台福寿公園

昭和28年（1953）と同50年に発掘調査が実施され、弥生時代後期と古墳時代前期の住居跡等が発見された。前者の調査では、東海地方東部の弥生後期の菊川式系土器の壺形土器が出土しており、当時の地域間交流や社会情勢を知るうえで貴重な資料である。調査地点は現在の区立西台福寿公園である。

Ⓔ西台後藤田遺跡※
西台1-15～21

都営住宅建て替えにともない平成7年（1995）から同9年にかけて発掘調査が実施され、旧石器時代から古墳時代の遺構や遺物が多数発見された。なかでも旧石器時代は武蔵野台地最古級（約4万年前）の文化層が確認されるとともに、遺物が非常に充実している。旧石器時代遺物は平成20年度に区指定有形文化財になっている。

赤塚 地区

松月院で発掘された、500年前の「お墓」の石

松月院境内遺跡第1地点出土中世遺物
（区登録有形文化財・考古資料）

赤塚八丁目にある松月院の境内では、今から約40年前、庫裏の建て替え前に発掘調査が行われました。地面の下を慎重に掘り出して調べた結果、旧石器時代から江戸時代まで、当時の人々が生きていた「あかし」が残っていることがわかりました。

調査の大きな成果は、1400～1500年ごろにつくられた、中世の石造物が多く出土したことです。特に、大きさ約2mの穴から五輪塔や宝篋印塔、板碑などが出土しました。

五輪塔や宝篋印塔、板碑は、中世に多く使われた石製の供養塔です。現代のお墓にも繋がる石造物の昔の姿で、供養した年月日や、供養された人の名前などが刻まれています。

出土した石造物はほとんどが破片や一部分で、完全な形には復元できません。人の手で割られ、穴に入れられたのだと考えられます。

なぜ、壊して埋める必要があったのでしょうか。15世紀末ごろ、この場所に建っていた昔のお寺から松月院へと変わった前後に、赤塚地域に何か変化があったのかもしれません。板橋区の中世の歴史を考えるうえで大事な文化財です。

㉟③徳丸北野神社 ☆
徳丸6-34

徳丸本村・脇村の鎮守。長徳元年（995）に京都北野神社の分霊を勧請したと伝わる。その際に村人が田夫の業を演じ奉ったのが、毎年2月11日夜に行われている**徳丸北野神社田遊び**（国重要無形民俗文化財）の起源とされる。江戸末期から昭和期にかけて奉納された**徳丸北野神社絵馬・扁額一式**は、徳丸地域の歴史や信仰を伝える貴重な資料。毎年5月5日には、**徳丸北野神社獅子舞**と**徳丸四ツ竹踊り**が奉納される。**梅樹堂師匠大野時長の碑**は明治5年（1872）、徳丸北野神社に天保期から明治初年にかけて置かれた寺子屋「梅樹堂」の師匠、大野時長を顕彰した石碑。時長は同社の宮司。梅樹堂で学んだ徳丸・下赤塚・西台、下練馬などの81名の子弟の名が刻まれる。碑文には「瘞退筆‥」とあり、筆子塚の性格を持つ。

⑯郷土芸能伝承館
徳丸6-29

区内に伝わる田遊びをはじめとする貴重な民俗芸能を伝承し、文化遺産として後世に伝えることを目的に平成元年に建設された文化施設。区内に伝わる無形民俗文化財に登録・指定された保存会を中心に練習が行われている。そこで使われる**徳丸北野神社田遊び用具・徳丸北野神社獅子舞用具・赤塚諏訪神社獅子舞用具**を収蔵。

㊱旧粕谷家住宅 ●
徳丸7-11

当家は、徳丸脇村名主粕谷家から隠居し始まるとされる。享保8年（1723）に建築された寄棟造りの萱葺の建物で、現在も建築当初の位置にある。平成29年度東京都指定有形文化財。当家に伝わっていた**粕谷尹久子家文書　付粕谷貞夫家文書**は、徳丸脇村の歴史や信仰を知ることができる貴重な史料（郷土資料館管理）。

㊲紅梅小学校
（見学不可）
徳丸8-10

明治7年（1874）に、区内で最古に開校した紅梅学校を遡源とし、同22年に安楽寺から現在地へと移転した。**紅梅小学校校史資料**は、同9年の「紅梅小学校史料綴」の簿冊をはじめとして、主に明治期から昭和期にかけての書類・日誌や寄贈資料などからなる。教育史や地域史を研究するうえで貴重な資料となっている。

㊳安井家文書 ●
（見学不可）
徳丸5

当家は江戸期を通じて徳丸本村の名主を世襲した。**安井家文書**は、慶長3年（1598）の徳丸村検地帳をはじめ、近世から近現代に及ぶ、区内で最もまとまった文書群で9,000点を数える。江戸期の文書のほとんどは、名主文書（村の公文書）である。江戸・東京の近郊農村の歴史を研究するうえで極めて貴重な史料。一部は郷土資料館が管理している。都指定有形文化財。

㊴安井芳一家文書
（見学不可）
徳丸5

安井芳一家は、江戸時代に徳丸本村の組頭や年寄を、明治期には戸長や赤塚村役場収入役などを務めた。当家の史料には、万治元年（1658）の金子証文、延宝2年（1674）の検地帳や天保・慶応期の砲術訓練関連などが、近代は戸長役場業務関係、戸隠講・三峯講に関する史料や、徳丸字別地番図、徳丸本村地価帳などがある。

㉜四葉稲荷神社
四葉2-9

当社は、以前に元亀3年（1572）の創建とする棟札があったとされる。江戸時代には四葉村の鎮守社であった。境内西側には、赤塚氷川神社木曽御嶽塚と同じく、赤塚一山講によって造られた**四葉稲荷神社木曽御嶽塚**がある。

㊵増福寺
赤塚7-14

寛永8年（1631）に松月院住職によって開かれた曹洞宗寺院。境内には江戸後期に十方庵敬順が著した『遊歴雑記』にも紹介された、「南無阿弥陀仏」が刻まれている**増福寺年不詳名号板碑**がある。その形状などの特徴から14世紀後半の作製と推定される。

⑰㉟㊱㊲④赤塚諏訪神社 ☆
大門11

戦国期に赤塚郷を領有した千葉自胤が、長禄年間（15世紀後半）に信州諏訪神社から分霊を勧請したとされる。下赤塚村の鎮守。毎年2月13日夜に行われる**赤塚諏訪神社田遊び**は、予祝の神事であり、国重要無形民俗文化財となっている。3月に行われる春祭には、当社と八幡神社を舞台として**赤塚諏訪神社獅子舞**が行われる。これらの郷土芸能に使用する**赤塚諏訪神社田遊び用具・赤塚諏訪神社獅子舞用具**も区有形民俗文化財。境内には**諏訪神社の夫婦イチョウ**（㊱）が、境外の旧参道入口には、**諏訪神社のこぶケヤキ**（㉟）がある。こぶケヤキは「乳ノ木様」と称され、乳授けの信仰対象であった。境外社の浅間神社は明治初期に造られた**赤塚諏訪神社富士塚**（㊲）であり、田遊びに際してはここに御輿が渡御する。

㊶泉福寺
赤塚6-39

暦応3年（1340）の大堂の鐘銘にその名が刻まれる真言宗寺院。**泉福寺十一面観音立像**（見学不可）は、天和元年（1681）に地元の春日伊兵衛が奉納したもの。境内には弘安9年（1286）から文亀3年（1503）にいたる**泉福寺所蔵板碑**があり、赤塚地域や区域の中世を解明するうえで貴重な資料である。

㊷㉝㉞松月院
赤塚8-4

延徳4年（1492）に千葉自胤が寺領を寄進し、中興したという武蔵千葉氏所縁の曹洞宗寺院。墓地内には、**伝千葉一族の墓地**や鎌倉期の僧了雲らの墓がある。徳川家康より40石の寺領が与えられ、歴代の将軍が出した**徳川将軍朱印状**が残る。江戸末期に徳丸原で西洋式の調練を行い、当寺を本陣とした高島秋帆を顕彰する**火技中興洋兵開祖高島秋帆紀功碑**が、大正11年（1922）境内に建てられた。門前の檀信徒会館脇には、**旧赤塚村役場跡地 付赤塚村自治記念碑**（㉝）がある。明治22年（1889）の町村制施行によって赤塚村が成立し、その村役場は昭和7年（1932）10月の板橋区の成立まで松月院に置かれた。当碑はその際に、これまでの赤塚村の事跡を記録するために建立された。境内には**松月院のヒイラギ**（㉞）もある。

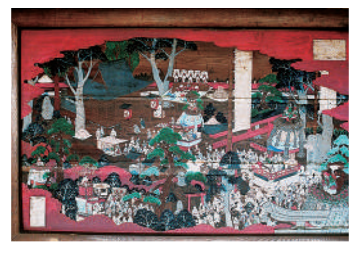
㊸㉛松月院大堂 ●
赤塚6-40

南北朝期には七堂伽藍をそなえた大寺院であったとされる。現在の**松月院大堂（三間堂）**は、延宝期（17世紀後半）頃に建てられた三間四方の建物で、内部が内陣と外陣にわかれているという特徴がある。中巌円月が鐘銘を作詩した**大堂銅鐘**は暦応3年（1340）に造られ、国の重要美術品。現在、鐘楼には複製が架けられ、実物は区立郷土資料館が管理。平安末期の作とされる**大堂阿弥陀如来坐像**と、延宝9年(1681)に、地元の春日伊兵衛が施主となり作られた**大堂閻魔王坐像**は、現在はともに松月院の宝物館である松宝閣に収蔵。

㊹乗蓮寺
赤塚5-28

室町期に、下板橋山中（現：仲町）に創建されたという浄土宗寺院。江戸期には下板橋宿にあり、将軍家から10石の寺領が与えられた。昭和46年（1971）から7年かけて板橋から現在地赤塚に移転した。境内にある**板橋信濃守忠康墓 付石灯籠**は、当寺の檀家であった中世板橋氏に由来する。幕末に板橋宿に居住していた**説経浄瑠璃五代目若太夫墓**もある。**天保飢饉の供養塔**は、天保飢饉に際して板橋宿で行路病死した人を当時の住職が供養し建立した塔。**乗蓮寺所蔵旧藤堂家染井屋敷石造物**は、元禄期（17世紀末）に現在の豊島区駒込付近に置かれた津藩藤堂家江戸下屋敷（染井屋敷）の庭園に配されていた石造物を移設したもの。また、**乗蓮寺文書**は江戸期から明治期にかけての文書群で、将軍が鷹狩を行う際の御成に関するものや、板橋信濃守忠康の200回忌法要にかかわる文書があり貴重。なお、通称東京大仏は、赤塚移転後に建立されたもの。

⑱㊳⑥赤塚氷川神社
赤塚4-22



戦国期に赤塚郷を領した千葉自胤が、長禄元年（1457）に大宮氷川神社から分霊を勧請したとされる上赤塚村の鎮守。毎年2月10日には**赤塚氷川神社田遊び**が行われている。**赤塚氷川神社田遊び用具**には、宝永8年（1711）の墨書が残るなど、周辺で行われている田遊び全体の歴史的な背景やその伝播などを考えるうえでも重要。参道にはケヤキと桜からなる**氷川神社の参道並木**が続く。二ノ鳥居脇には明治初年に造られた**赤塚氷川神社富士塚**が、境内本社西側には**赤塚氷川神社木曽御嶽塚**が残る。**赤塚氷川神社所蔵絵馬・扁額**は江戸末期以降の貴重な資料。

㊺新田坂道祖神等石造物
成増2-33

川越往還が白子川に向かって台地上から下っていく坂を新田坂と称する。これは川の対岸に白子宿をのぞみ、川の手前を新田宿と称したことに由来する。もともとは、街道沿いにあった道祖神や常夜灯などが当地へと移されて祀られている。

㊻成増田中家住宅
（見学不可）

当家は、旧成増村の名主を務めた田中家の主家。区登録文化財**「田中泰彦家文書」**（㊽）から、天保12年（1841）の建築とわかる。木造寄棟造りで、現在は茅葺き屋根を鉄板で覆っている。

⑲⑤菅原神社
成増5-3

江戸期以来、「山王社」、「自在天神」、「北野神社」などと社号がしばしば変更され、明治7年（1874）からは「菅原神社」となった。成増地域には区無形民俗文化財の**成増里神楽**が伝えられ、当社の例祭で舞われている。また、その演舞に使われる**成増里神楽用具**も有形民俗文化財となっている。

㊼㉚徳丸ケ原 ●

徳丸ケ原は、現在の三園・高島平・新河岸一帯を範囲とし、赤塚六ケ村の入会田地と萱場からなる。江戸期には将軍家の鷹場や砲術訓練場として使われた。また、天保12年（1841）に高島秋帆による西洋式砲術の訓練が行われている。明治以降は赤塚田んぼ・徳丸田んぼと呼ばれる広大な田園地帯となった。大正11年（1922）には弁天塚に**徳丸原遺跡碑**（㊼）が建てられたが、現在は徳丸ケ原公園（高島平8-24）に移転。昭和44年（1969）からは、当地で大規模な宅地開発が始まり、現在の高島平に姿を変えた。

㊽⑳区立郷土資料館 ●○ ※収蔵・管理をする文化財は主に展示により公開
赤塚5-35

郷土資料館は、板橋区域に関する資料の収集・保管・展示を通じて、区の歴史・生活・文化を明らかにすることを目的として、昭和47年（1972）に開館した。収蔵・管理する文化財は以下の通りである。

■【赤塚地域】**大堂銅鐘**、徳丸本村名主家の**安井家文書**の一部、徳丸脇村の**粕谷尹久子家文書　付粕谷貞夫家文書**、徳丸脇村のうち東叡山領分の名主家文書である**須田誠一家文書**、徳丸四ツ葉村の百姓代を務め、大根・沢庵漬などの生産・販売に関するものに特徴がある**加藤正雄家文書**、成増地域の町会関係文書が特徴の**田中泰彦家文書**、三峯信仰に関する記録や戦前・戦中の板橋区会会議録がまとまっている**松戸一浩家文書**、室町時代の赤塚郷にかかわる貴重な資料である**旧石成村観音堂鰐口**がある。また、資料館の敷地にある**旧田中家住宅**は、徳丸地域にあった江戸中～後期に建てたとみられる痕跡が残る家屋を移築したもの。**木曽御嶽赤塚一山講関係資料**は、江戸後期に上下赤塚・徳丸四葉地域に伝播した一山講に関する資料で、講の先達を務めた大門本橋家に伝わるものである。**田口恒次家文書**は、徳丸本村の年寄や出羽三山講の講元を務めた家（世襲名は善兵衛）の資料で、出羽三山講の関係資料や寺社札など江戸・東京の民間信仰を明らかにするうえで貴重。**田中義一家文書**は、当家が出羽三山徳丸講の副講元を務めていたので祈祷文・祝詞や富士講などの信仰関係のほか、明治期から大正期の当家の生活・運営、選挙などから構成される資料。

■【板橋地域】板橋宿に関するものとして、板橋宿平尾宿で名主と脇本陣・問屋を兼務していた豊田家の資料である**脇本陣豊田家資料一括**がある。これは、とくに幕末期の煎茶コレクションが重要。ほかには板橋宿の本陣家（世襲名は新左衛門）に伝わり、本陣図を含む古文書と関札からなる**飯田博通家資料**、飯田家の総本家で、板橋宿中宿名主・脇本陣・問屋を兼務した飯田家（世襲名は宇兵衛）に伝わった**飯田侃家資料**がある。後者は江戸期からの古文書や明治期の行在所の木札、書画・短冊類からなる。古文書には、和宮降嫁に関するものや、明治期の戸長役場関連文書がある。そのほかには、東京第二陸軍造兵廠跡地の土地・建物利用に関する写真や文書、自治会収受文書からなる**加賀五四自治会（肥田一穂氏寄贈）文書**。富士講中興の祖である伊藤身禄の直弟子で、板橋宿平尾に住んでいた永田長四郎（永田長照）が組織した「冨士永田講」に伝わる祭具類である**冨士永田講関係祭具一括**がある。とくに祭壇は文政2年（1819）に上板橋永田講によって作製された貴重なもの。ほかに、**稲荷台遺跡出土（江坂輝彌氏旧蔵）遺物 付写真、縁切榎茶屋風景図絵馬**がある。

■【志村地域】志村の名主を務め、藤左衛門を世襲名とした**大野和夫家文書**がある。とくに板倉氏が領主だった江戸時代前期の検地帳や、尾張藩鷹場関係史料などは、志村地域の歴史を知るうえで貴重。

■【上板橋地域】富士講「冨士山万丸證講」の講元に伝わった**栗原良一家文書**がある。

㊴早瀬の渡し水神宮碑
新河岸3-9　区立新河岸公園内

当地には中世鎌倉道の渡河点という伝承が残る。江戸期から大正期にかけて、旧上赤塚村から対岸の旧下笹目村を結ぶ渡し場（早瀬の渡し）が設けられていた。当碑は文政4年（1821）に水難事故防止のために造られたもの。

㊵不動の滝
赤塚8-11

江戸時代に流行した富士詣・大山詣をはじめ、霊山登拝の際に、滝の水で心身を浄める禊の場として利用した。滝の落ち口には寛政11年（1799）造立の石造不動尊像が祀られている。平成15年には「東京の名湧水57選」にも選定。

藤﨑光淳氏撮影写真ネガフィルム

成増に所在する真言宗寺院青蓮寺の住職を務めた藤﨑光淳氏が、昭和10年（1935）～同58年にかけて撮影した写真群。区西部地域の景観の変遷や昭和期の時代様相を知ることができる貴重な資料。教育委員会に寄贈。

荒川の水面を走る帆掛舟

Ⓕ徳丸東遺跡※
徳丸6-33

共同住宅建設にともない、昭和58年（1983）に発掘調査が実施され、縄文時代から平安時代の遺構や遺物が発見された。なかでも弥生時代後期から古墳時代前期と古墳時代後期は充実している。区内で方形周溝墓が初めて調査された遺跡である。

Ⓖ大門遺跡※
大門11

新大宮バイパスの建設にともない、昭和63年（1988）から平成元年にかけて発掘調査が実施され、旧石器時代の良好な石器類が出土するとともに、古墳時代中期の方形周溝墓の溝から赤色顔料の入った壺形土器が出土した。

Ⓗ成増との山遺跡※
成増3-33

都営住宅の建て替えにともない、平成2年から同3年にかけて発掘調査が実施され、旧石器時代の文化層と石器が発見された。特に約800点を超える立川ローム層第Ⅸ層上部の石器は貴重な資料である。

Ⓘ菅原神社台地上遺跡※
成増5-3

都営住宅の建て替えにともない、平成5・6年に発掘調査が実施され、旧石器時代や弥生・古墳時代の遺構・遺物が発見された。なかでも旧石器時代の立川ローム層第Ⅵ・Ⅶ層文化層から出土した山形産硬質頁岩製石器は、石材流通や石器製作状況を究明するうえで貴重な考古資料である。

Ⓙ松月院境内遺跡

昭和59年に庫裏の建替えに伴って、松月院境内遺跡の発掘調査を実施した。遺跡からは、古墳時代前期・中期・後期の集落跡が見つかっている。また、中世のピットからは**松月院境内遺跡第1地点出土中世遺物**が出土した。遺物は14～15世紀にかけて造立された石造物群が大半を占める。石造物が埋められた15世紀末頃は、当地に存在した法持寺を武蔵千葉氏の菩提寺と定め、松月院に名を改めた時期とも重なっている。